

おいしさ、けんこう、
つぎつぎ、わくわく。))



2022年3月期 第2四半期
決算説明会資料
(2021年4月1日～2021年9月30日)

2021年11月12日

フジッコ株式会社 (2908)

<https://www.fujicco.co.jp/>

“ニュー・フジッコ”の取り組み進捗

“ニュー・フジッコ”の創造

**生産性が高く
経営と商品品質の優れた
社員が働き甲斐のある**

強靱な会社づくり

3本柱

ブランド価値の強靱化

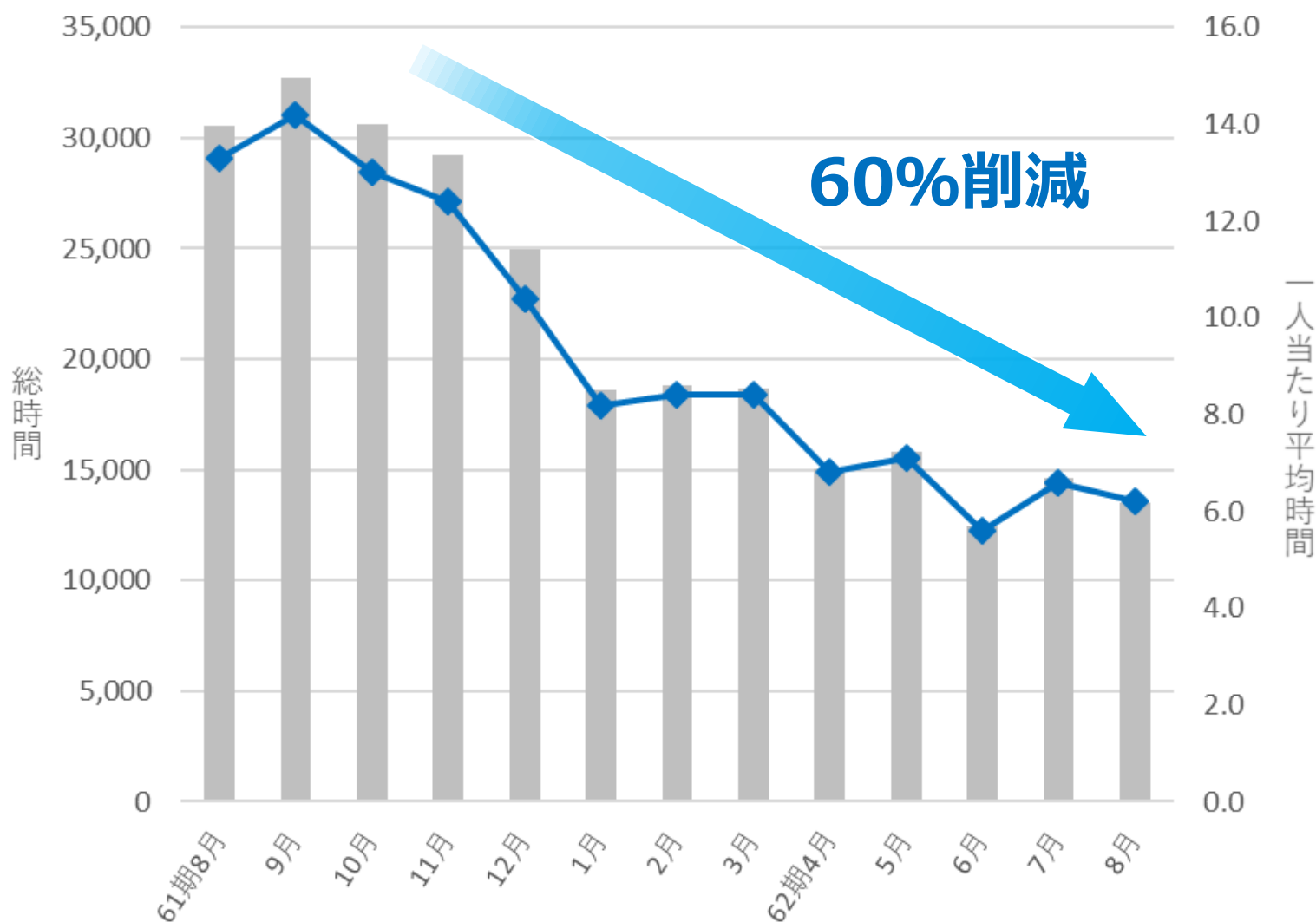
生産性向上

働き方改革

コロナ禍の経験を活かし 経営品質の向上の取り組みを進める

- ① **働き方改革**
残業のない会社へ。
- ② **工場の統合・再編、自動化**
コロナ禍の経験を経て省力化・物流改革を抜本的に行う。
- ③ **日配惣菜部門の新会社化**
- ④ **商品数の削減（特に赤字商品）と商品力の強靱化**
コロナ禍の経験を経て「スター商品」の競争力を圧倒的に高め、シェア重視の戦略を進める。
- ⑤ **在宅ワーク可能のオフィス改革**
DXにより「遅れたオフィス」の先進化に取り組む。

残業のない会社への取り組み



フジッコNEWデリカ株式会社の新設

2021年8月設立、10月本格稼働

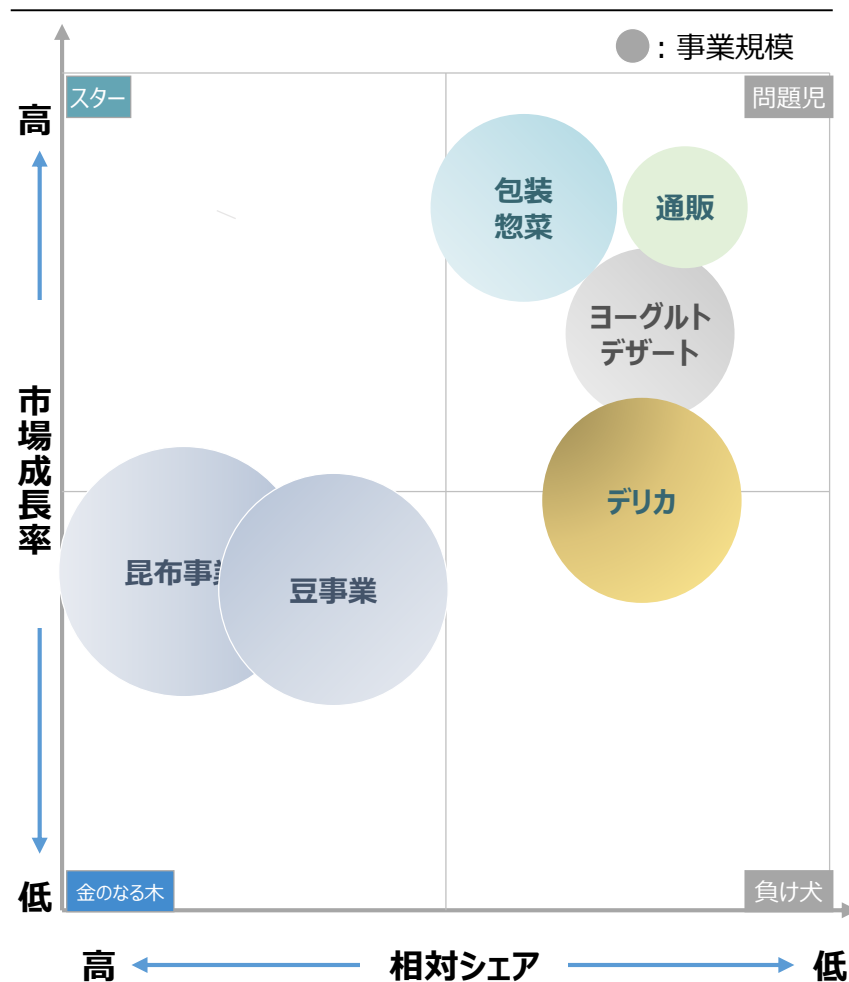
独立専門化された新会社では、迅速な意思決定とともに、スピード感ある開発主体の経営体制を構築し、従業員が誇れるお惣菜の会社を目指します。

【収益性改善の取り組み】

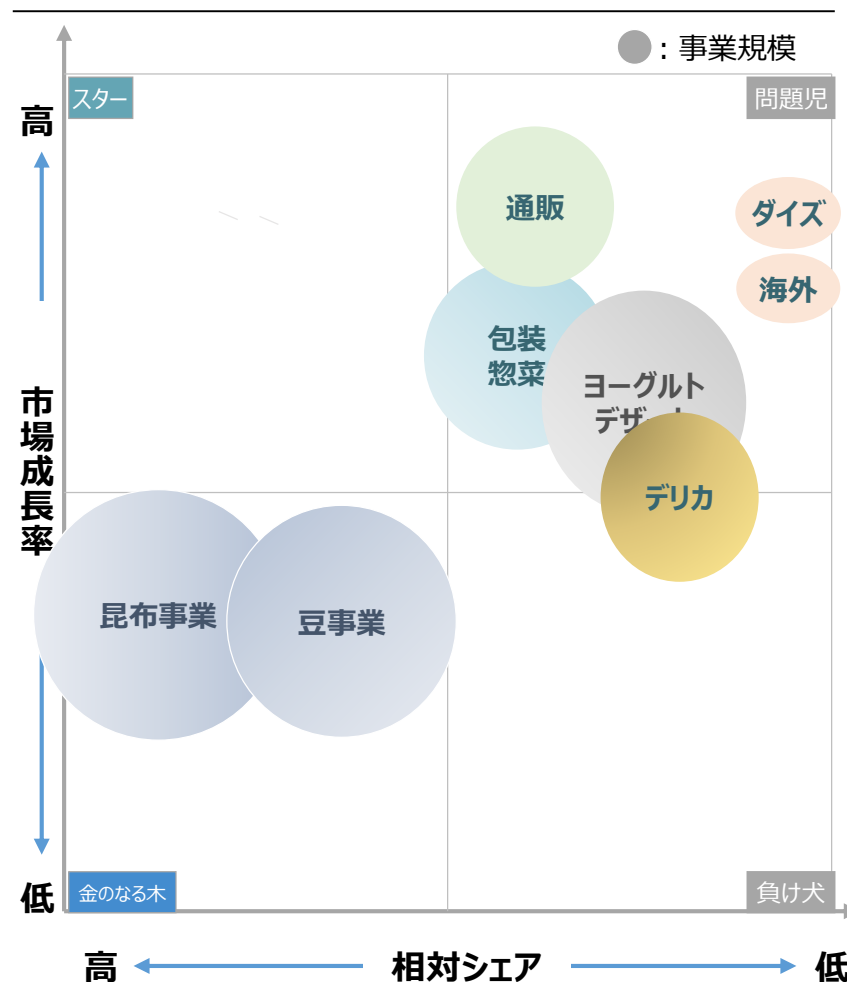
- ・ SKU削減
- ・ 1品単価の引き上げ
- ・ 不採算取引の解消
- ・ 残業時間の削減

④ 「ブランド価値」の強靱化 ～ 事業ポートフォリオ ～

2020年度



2021年度



④ 「ブランド価値」の強靱化 ～ プロモーション施策 ～

TVCMの上期集中投下 昨年のCM投下はゼロ

品群	4月	5月	6月	7月	8月	9月
塩こんぶ			↔			
佃煮						↔
彩り豆		↔				
おばんざい小鉢						↔
カスピ海YG		↔				↔
大豆YG		↔				↔
ヨープレート		↔	↔			↔

* 放映エリアごとに放映期間が設定されております。（全国一斉ではございません。）

デジタル環境の再整備



ノートPCの標準化

- ・ Windows10搭載のノートPCを標準PCとして全面切り替え

ペーパーレス化

- ・ テレワーク下の生産性向上を図るため、個人経費精算、社内申請書のペーパーレス化を推進

セキュリティ強化

- ・ Zscalerを全社導入し、セキュリティの高いアクセス経路を確保
- ・ VPN接続は利用縮減の方向へ

コミュニケーションのオンライン強化

- ・ ガルーンからOffice365に移行し、メールサイズの増強
- ・ 全社コミュニケーションの基盤としてMicrosoft Teamsを標準装備

NW環境の増強

- ・ テレワーク推奨の下、オンライン会議の移行に伴い、NW環境負荷軽減のため、NW基盤の増強



遅れているDXを早急に進化させる

ペーパーレス化

- 紙とハンコをなくし、個人経費精算のデジタル承認、社内申請書のワークフロー化は今年中に完了。
- 内部統制手続きの高度化・効率化。業務フローの見直し等により、ペーパーレスとともに、チェックリスト項目数の60%削減の実現

今後の取り組み課題

- AI予測等を駆使したロジスティクス改革
- 意思決定のための経営情報データシステム
- 生産管理システムの高度化
- 購買手続きの自動化

大豆タンパク質に注目集まる

Beanus

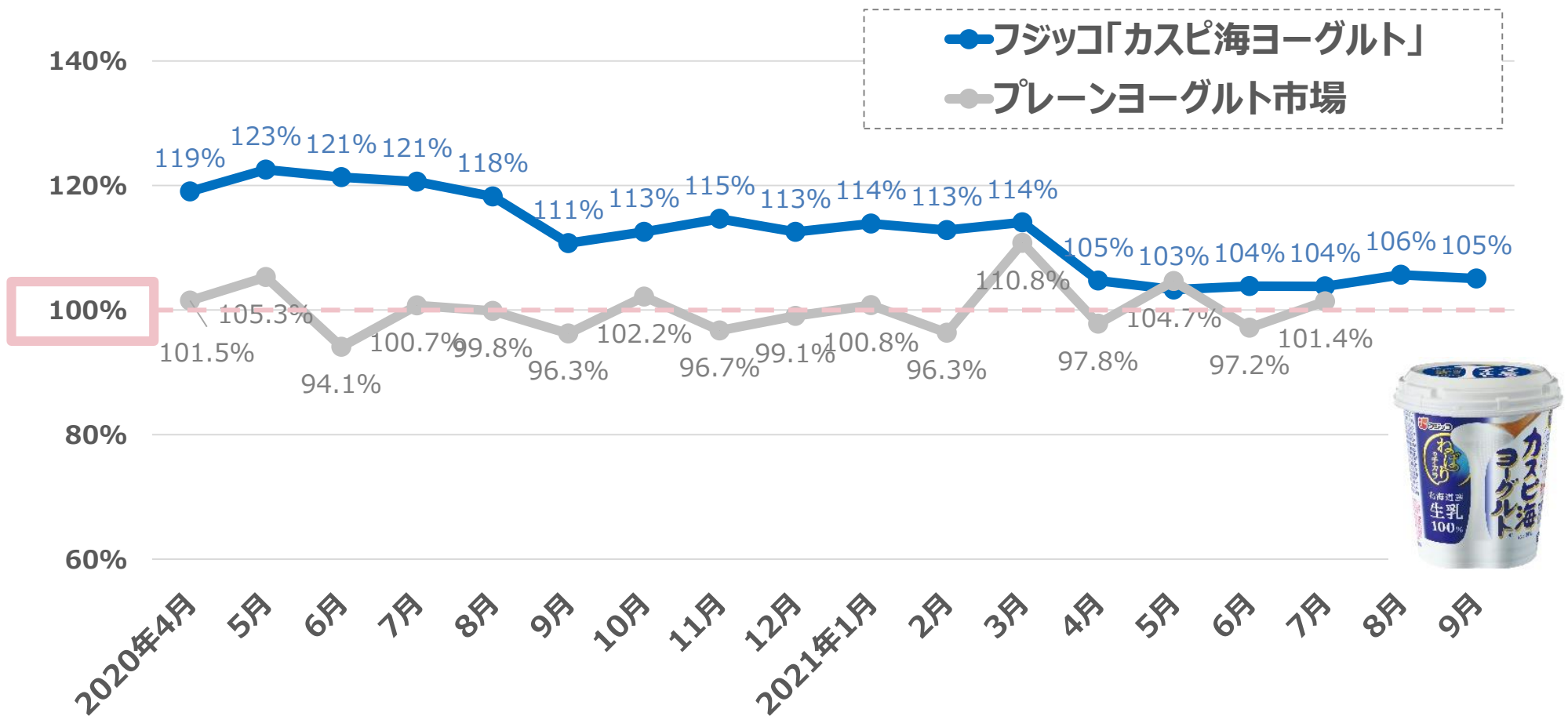


「ダイズライス」事業



「大豆で作ったヨーグルト」

免疫力向上意識の高まり 市場伸び悩み、当社は105%伸長（2021年度上期）



コロナ禍の成長チャネルとして 2021年度上期 107%伸長



カスピ海ヨーグルトの生きた乳酸菌
「善玉菌のチカラ」

黒酢黒大豆
「クロクロ」
前年比115%

2021年度 上期決算概要と通期業績の見通し

上期決算概要

連結損益計算書（前年との比較）

※新基準比較

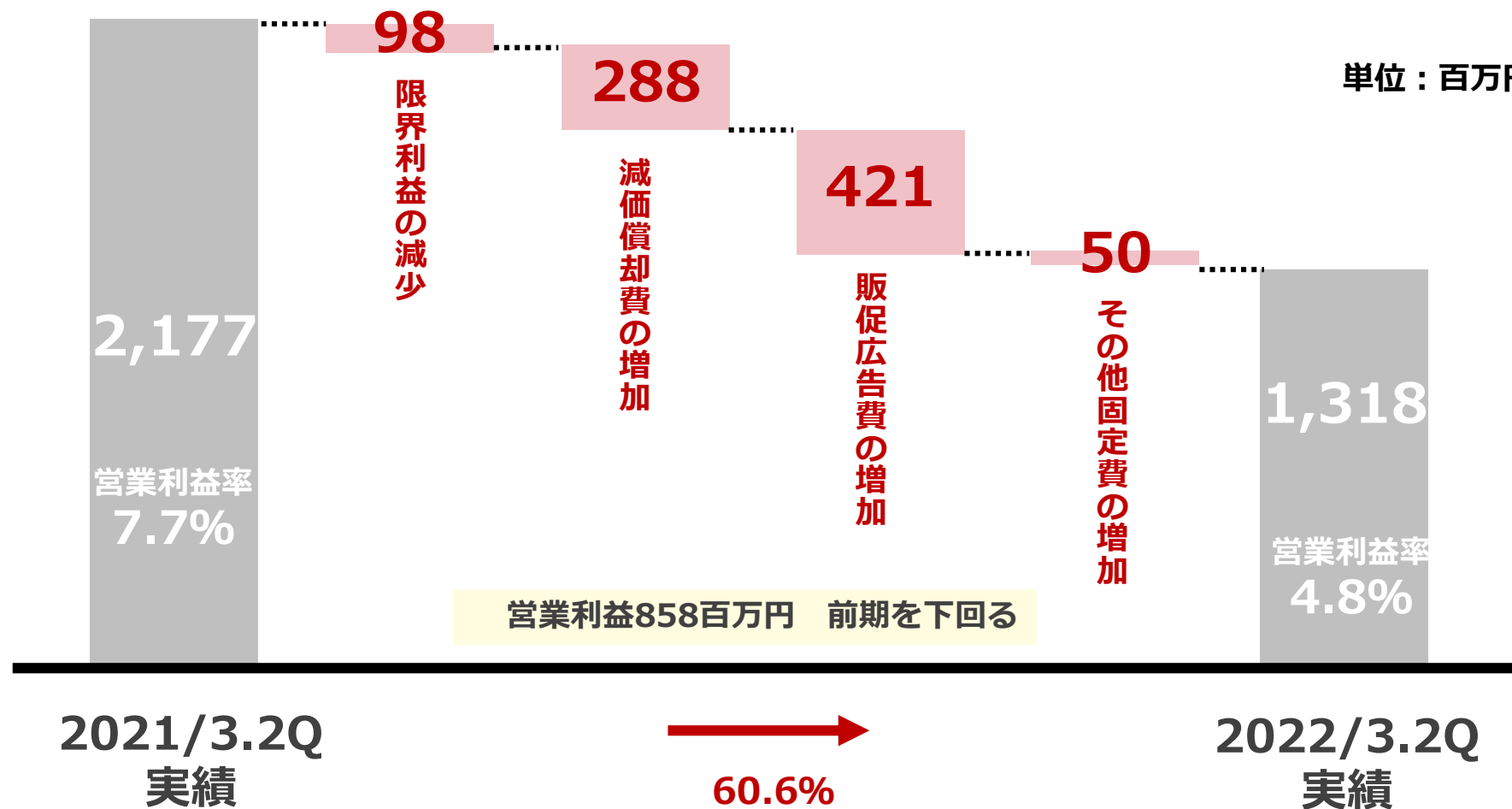
	2021/3期第2Q		2022/3期第2Q		増減額	増減率
	百万円	%	百万円	%		
売上高	28,138	100.0	27,255	100.0	△883	△3.1%
売上原価	18,510	65.8	18,086	66.4	△424	
売上総利益	9,628	34.2	9,169	33.6	△458	
販管費	7,451	26.5	7,850	28.8	399	
営業利益	2,177	7.7	1,318	4.8	△858	△39.4%
営業外損益	192	0.7	170	0.6	△22	
経常利益	2,369	8.4	1,488	5.5	△881	△37.2%
特別損益	0	0.0	313	1.2	312	
税引前利益	2,370	8.4	1,802	6.6	△568	
四半期純利益	1,607	5.7	1,248	4.6	△359	△22.4%
1株当たり純利益	53円68銭		41円67銭		△12円01銭	

※ 四半期純利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益になります。

営業利益の増減要因分析（前年との比較）

昆布と豆は、コロナ禍の市場縮小が響き、売上高は減収となったものの、収益性改善に取り組む日配惣菜の政策的な減収（前年より△458百万円）があったにもかかわらず、限界利益は軽微なマイナスにとどまった。

上期の営業減益の要因は、減価償却費の増加とTVCM集中投下による販促広告費の増加による。



連結製品分類別売上高（前年との比較） ※新基準比較

（百万円）	前期 実績	構成比 %	当期 実績	構成比 %	前期差	前期比 %
惣 菜 製 品	9,816	34.9	9,382	34.4	△434	95.6
昆 布 製 品	7,080	25.2	6,935	25.4	△145	98.0
豆 製 品	5,295	18.8	4,714	17.3	△580	89.0
ヨーグルト製品	3,594	12.8	3,625	13.3	31	100.9
デザート製品	1,416	5.0	1,467	5.4	50	103.6
そ の 他 製 品	935	3.3	1,129	4.1	194	120.8
合 計	28,138	100.0	27,255	100.0	△883	<u>96.9</u>

【総括】

従来基準の売上高、新基準の売上高とも前年比97%、販促リベートの水準に差はみられなかった。

【品群別コメント】

ヨーグルト製品では、「カスピ海ヨーグルト」及び「大豆ヨーグルト」、通販サプリがプラスオン

豆製品では、煮豆の品目集約の影響と「彩り豆」が予定に届かず、水煮・蒸し豆が大きく前年割れ

惣菜製品では、「おばんざい小鉢」は好調も、収益性改善に取り組んでいる日配惣菜は政策的に売上を落として△458百万円の前年割れ

昆布製品では、佃煮は堅調に推移も、塩こんぶが伸び悩み

連結損益計算書（期初予想との比較）

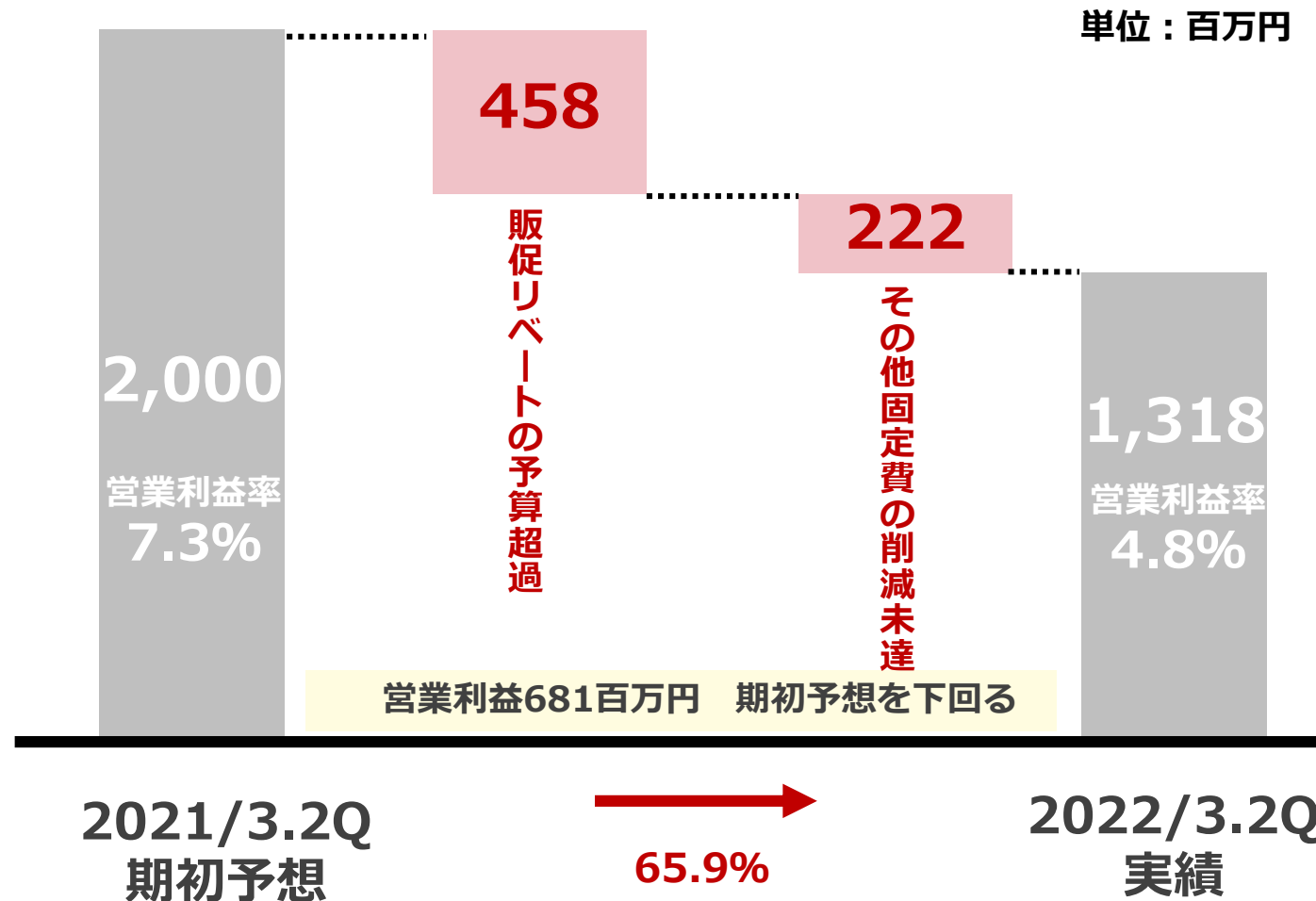
※新基準比較

	2Q予想		2Q実績		差	増減率
	百万円	%	百万円	%		
売上高	27,500	100.0	27,255	100.0	△244	△0.9%
売上原価	17,741	64.5	18,086	66.4	344	
売上総利益	9,758	35.5	9,169	33.6	△589	
販管費	7,758	28.2	7,850	28.8	92	
営業利益	2,000	7.3	1,318	4.8	△681	△34.1%
営業外損益	150	0.5	170	0.6	20	
経常利益	2,150	7.8	1,488	5.5	△661	△30.8%
特別損益	0	0.0	313	1.2	313	
税引前利益	2,150	7.8	1,802	6.6	△347	
四半期純利益	1,500	5.5	1,248	4.6	△251	△16.8%
1株当り純利益	50円07銭		41円67銭		△8円40銭	

※ 四半期純利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益になります。

営業利益の増減要因分析（期初予想との比較）

コロナ禍、競争環境は厳しく、販促リベートは予算超過となった。
その他固定費のコストダウンがうまく進まなかった。



連結製品分類別売上高（期初予想との比較） ※新基準比較

（百万円）	2Q 予想	構成比 %	2Q 実績	構成比 %	差	比 %
惣 菜 製 品	9,674	35.2	9,382	34.4	△292	97.0
昆 布 製 品	6,861	25.0	6,935	25.4	73	101.1
豆 製 品	4,821	17.5	4,714	17.3	△106	97.8
ヨーグルト製品	3,750	13.6	3,625	13.3	△124	96.7
デザート製品	1,416	5.2	1,467	5.4	51	103.6
そ の 他 製 品	975	3.5	1,129	4.1	154	115.9
合 計	27,500	100.0	27,255	100.0	△244	<u>99.1</u>

【総括】

従来基準の売上高では予算を上回り、「量的売上高」は増えたものの、販促リベートの予算超過があったため、新基準ベースの売上高は予算に対して未達となった。

【品群別コメント】

惣菜製品では、「おばんざい小鉢」が予算には届かず苦戦

ヨーグルト製品では、主力のカスピ海ヨーグルト及び通販サブリ好調も、ヨープレイトの予算未達が誤算

豆製品では、水煮・蒸し豆は予算どおり、煮豆は新商品「彩り豆」の予算未達が誤算

四半期会計期間の売上高・営業利益の増減推移（前期比）

(単位：百万円)		売上高	営業利益	営業利益率
第 1 Q (4 - 6月)	前第 1 Q	13,782	958	7.0%
	実績	13,568	554	4.1%
	増減	△213	△404	－
	前同四半期比	98.5%	57.8%	－
第 2 Q (7 - 9月)	前第 2 Q	14,356	1,218	8.5%
	実績	13,686	764	5.6%
	増減	△669	△454	－
	前同四半期比	95.3%	62.7%	－
累計 (4 - 9月)	前期	28,138	2,177	7.7%
	実績	27,255	1,318	4.8%
	増減	△883	△858	－
	前同四半期比	96.9%	60.6%	－

連結貸借対照表（前期末との比較）

単位：百万円

2021/3末

現預金 13,874	流動負債 12,876
受手・売掛金 9,185	固定負債 1,428
棚卸資産ほか 9,817	
固定資産 52,332	純資産 70,905
総資産 85,209	

2021/9末

現預金 12,397	流動負債 8,726
受手・売掛金 9,381	固定負債 1,359
棚卸資産ほか 9,589	
固定資産 49,975	純資産 71,258
総資産 81,343	

【増減】

- 現預金は1,476百万円の減少となり、主な増減は以下のとおり

税引前利益 1,802百万円

減価償却費 1,847百万円

法人税等 △651百万円

投資活動 △3,159百万円

（関東新棟、新東京FF）

配当金 △630百万円

- 固定資産の減少は主に、減価償却に伴う有形固定資産の減少による

有形固定資産 △2,024百万円

- 自己資本比率

（2021/3末） （2021/9末）

83.2% ⇒ 87.6%

通期業績の見通し

物量をも高める、限界利益をも高める

- ① 収益性が高く生産性が高い「スター商品」の売り込み
- ② 「丹波黒黒豆」の拡販で12月商戦を成功させる

「丹波黒黒豆」TVCM全国で放映

12月25日～12月31日（予定）

北海道、岩手、宮城、福島、首都圏、新潟、長野、石川、
静岡、中京、近畿、徳島、広島、岡山、香川、福岡、佐賀



連結業績予想（新基準）

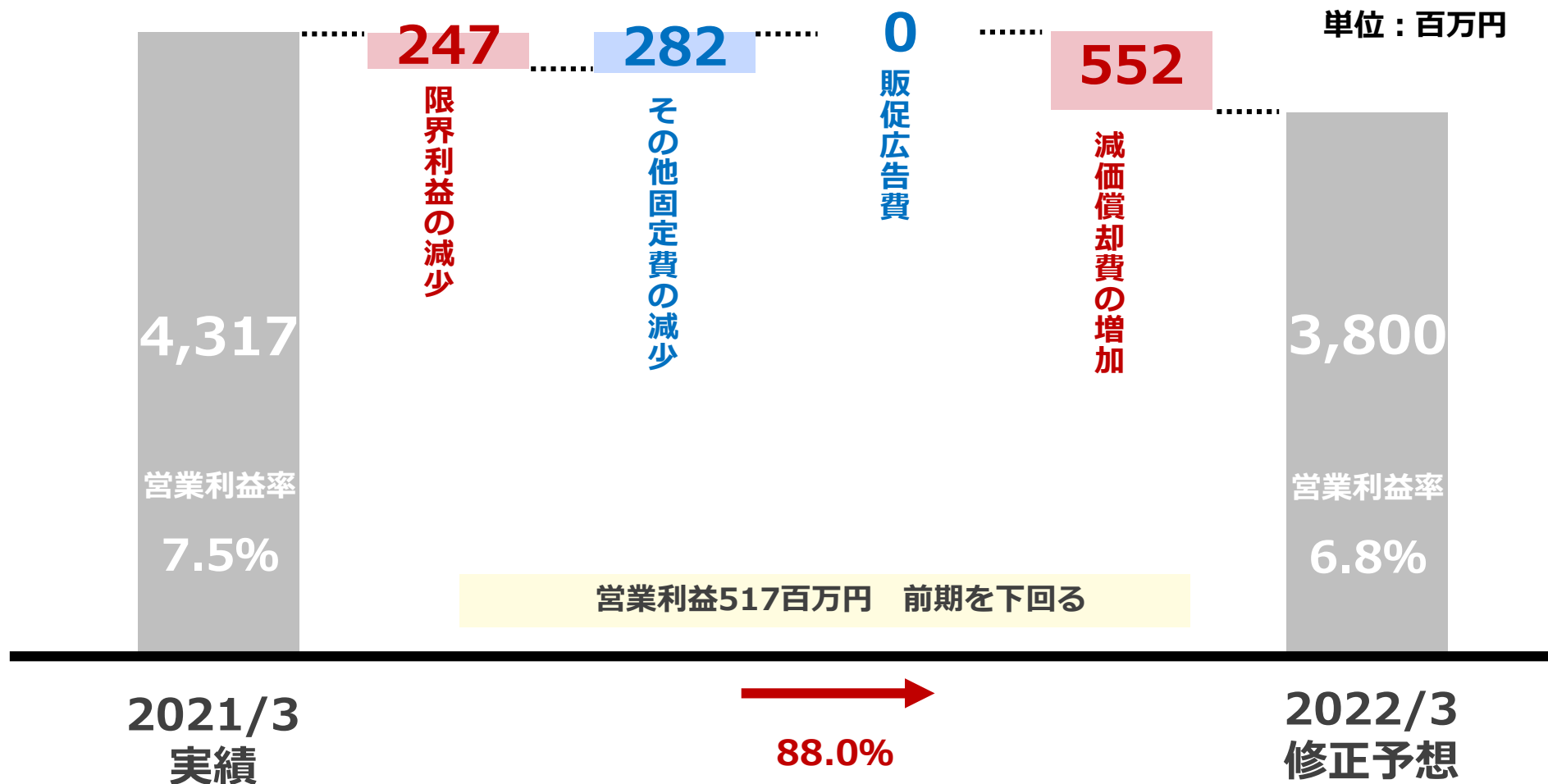
	2021/3期		2022/3期修正		増減額
	百万円	%	百万円	%	
売上高	57,338	100.0	56,000	100.0	△1,338
売上原価	37,891	66.1	36,900	65.9	△991
売上総利益	19,446	33.9	19,100	34.1	△346
販売費及び一般管理費	15,128	26.4	15,300	27.3	171
営業利益	4,317	7.5	3,800	6.8	△517
営業外損益	393	0.7	300	0.5	△93
経常利益	4,711	8.2	4,100	7.3	△611
特別損益	8	0.0	0	0.0	△8
税引前利益	4,720	8.2	4,100	7.3	△620
当期純利益*	3,405	5.9	2,800	5.0	△605
1株当り当期純利益	113円70銭		93円47銭		△20円23銭

1株当り配当金	41円（中間20円）	45円（中間22円）	4円
---------	------------	------------	----

* 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益。

営業利益の増減要因分析（前年との比較）

上期集中したTVCMを下期は当初予算のとおり執行をコントロールするも、減価償却費の増加分が減益の要因となる。



連結製品分類別売上高（新基準）

（単位：百万円）	2021/3 実績	構成比 %	2022/3 予想	構成比 %	前期差	前期比 %
惣 菜 製 品	20,081	35.0	19,551	34.9	△529	97.4
昆 布 製 品	14,799	25.8	14,205	25.4	△594	96.0
豆 製 品	11,413	19.9	10,613	19.0	△799	93.0
ヨーグルト製品	6,997	12.2	7,512	13.4	514	107.4
デザート製品	2,259	3.9	2,232	4.0	△27	98.8
そ の 他 製 品	1,786	3.1	1,884	3.4	98	105.5
合 計	57,338	100.0	56,000	100.0	△1,338	97.7

予想の根拠

- 惣菜製品 : 収益性改善を進める日配惣菜の政策的な売上減。
- 昆布製品 : 佃煮は、市場縮小の影響を受ける。
- 豆製品 : 煮豆は、市場縮小の影響を受ける。「丹波黒黒豆」の拡販。
- ヨーグルト製品 : 「大豆で作ったヨーグルト」の配荷率アップ。
- デザート製品 : 期間限定商品の投入。

連結業績予想（新基準）

～ 期初予想との比較 ～

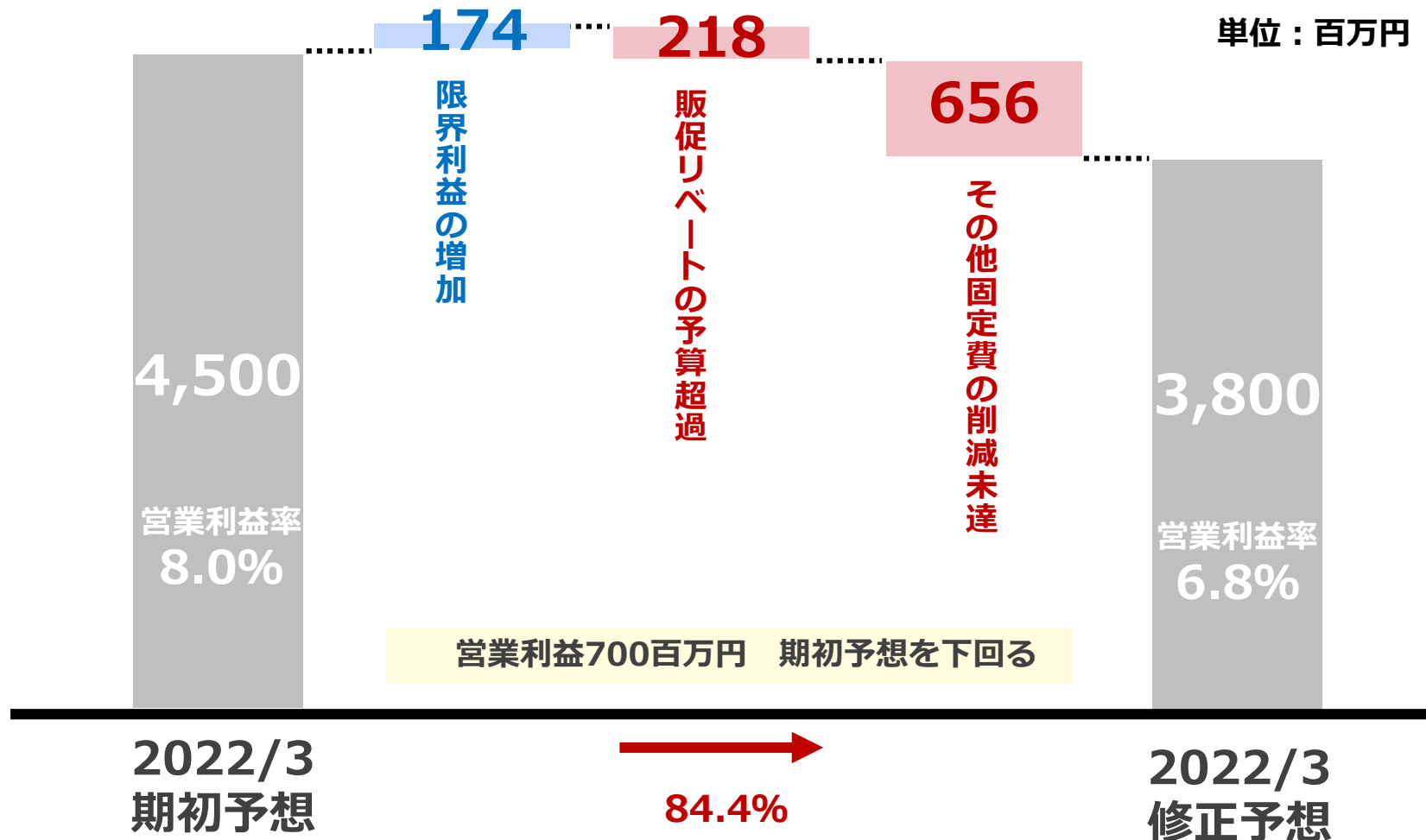
	2022/3期期初		2022/3期修正		増減額
	百万円	%	百万円	%	
売上高	56,000	100.0	56,000	100.0	—
売上原価	36,500	65.2	36,900	65.9	400
売上総利益	19,500	34.8	19,100	34.1	△400
販売費及び一般管理費	15,000	26.8	15,300	27.3	300
営業利益	4,500	8.0	3,800	6.8	△700
営業外損益	300	0.5	300	0.5	—
経常利益	4,800	8.6	4,100	7.3	△700
特別損益	—	—	0	0.0	0
税引前利益	4,800	8.6	4,100	7.3	△700
当期純利益*	3,300	5.9	2,800	5.0	△500
1株当り当期純利益	110円16銭		93円47銭		△16円69銭

1株当り配当金	45円（中間22円）	45円（中間22円）	—
---------	------------	------------	---

* 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益。

営業利益の増減要因分析（期初予想との比較）

限界利益の増加により、販促リベートの予算超過分の一部を補うも、毎月のコストダウンがうまく進まず、その削減未達分が大きい。



連結設備投資額と減価償却費の推移、EBITDA

前期で老朽化、生産ラインの統合、新規事業に対する投資は一巡し、
今期以降、投資は急速に減少する。
したがって、減価償却費は今期をピークとして来期以降は減少していく見込み。
よって、EBITDA（営業利益＋減価償却費）は前期並みをキープする見込み。

設備投資額の推移

(百万円)	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	5期間計	22/3予想
設備投資額	3,513	7,268	3,638	5,656	8,232	<u>28,307</u>	3,100

2013/3

北海道工場新設

鳴尾工場新棟

和田山工場

塩こんぶ新棟

北海道工場

ヨーグルト増床

鳴尾工場

大豆ヨーグルト

関東工場

豆製品新棟

新東京FF開設

おばんざい小鉢 生産ライン新設

期初予定

4,500



減価償却費の推移

(百万円)	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3予想
減価償却費	2,137	2,405	2,762	2,955	3,176	3,666

この資料には、当社の現在の業績見通しなどが含まれております。それら将来の予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの予想などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

～ お問合せ先 ～

経営企画部 尾西・小松まで

T E L 078-303-5921

F A X 078-303-5949